



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA

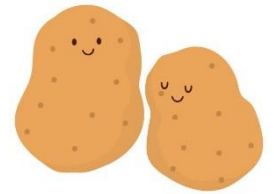
スポンサー 大阪クラブ DBC 近江八幡クラブ 広島クラブ

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB - CHARTERED MAY 17TH, 1948

主題・スローガン

- 西宮クラブ会長 「楽しく充実した活動」 浅野純一
- Yサ・ユース 「次世代に向けてYワイズ・Y YMCA・Yユースが相互に、
事業主査 W_{ウィン}・W_{ウィン}・W_{ウィン}で立場持ち場を越えて支え合おう」 小野勅紘
- 六甲部部长 「YMCA とのさらなる協働を目指して」 井出 浩
- 西日本区理事 「未来に灯そう希望の光り」
「互いに認め合おう 世界の友と」 深谷 聡
- アジア会長 「変革のための光となろう」
「親睦を通して、輝き、力を得よう」 利根川恵子
- 国際会長 「輝かそう、あなたの光を」 ウルリック・ラウリドセン
「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」

2023年
10月
906号
(77期4号)



10月 西日本区強調活動 ASF (Alexander Scholarship Fund)

YMCA の歴史を学び、使命を理解し、ワイズの意義を再考しましょう。

私たちはもっと仲良くなれる！

吉田 由美 Yサ・ユース事業主任 (大阪なかのしま)

西宮ワイズメンズクラブ 10月第一例会 こどもカーニバル

日時：10月28日(土)

場所：西宮 YMCA・西宮 YMCA 保育園

ドライバ：足立康幸メン・濱崎進一メン

第1部 9:30-11:00

西宮 YMCA 保育園・つとがわ保育園 在園児及び
卒園児、保護者

第2部 11:30-13:00

YMCA 育成センター・まめの木・サポート
プログラム・YBB の子どもたち・保護者

内容

わたがし ポップコーン ジュース
ゲーム・クラフトコーナー おたのしみ劇場

Happy Birthday / October

9日 西山 茂夫メン

9日 廣瀬 敦子メネット

12日 重村 仁メン

今月の聖句

「それだから、あなた方に言うておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか」

マタイによる福音書6章25節 岩田健司選

9月出席状況 (在籍会員数 21名)

第一例会 (15金)		第二例会 (22金)	
メン	14名	メン	10名
メネット	0名	メネット	0名
ゲスト	0名	ゲスト	0名
MU	3名	計	10名
合計	17名	出席率	81.0%

ファンド

	9月	累計
ニコニコ	¥1,000	¥4,000
BF	¥4,100	¥8,300

会長 浅野 純一 直前会長 濱 浩一 副会長(次期会長) 濱崎 進一 副会長 足立 康幸
 書記 山口 吉郎, 小野 勅紘 会計 濱崎 進一, 重村 仁 監事 阪根 新, 丸山 悦治 担当主事 森川 俊介
 Yサユース事業主査 小野 勅紘 組織検討安全対策委員 山口 吉郎 次期六甲部長 小野 勅紘

会長メッセージ

会長 浅野 純一

先日9月16日開催の山口政紀メンの「しのぶ会」、そのあとの「鱧の会」に多くの方が参加されて無事執り行われました。良い会でした。とくに役割を担われた方々ご苦労様でした。会の中で馬場一郎メンがコロナに感染されて、昨年のご葬



儀には参列できなかったことを話されていましたが、私も同様でした。政紀メンには大変お世話になっただけに今回、会に参加して気持ちのうえで一区切りができました。

ところで、この文を書いているのは9月末ですが、未だに猛暑日に見舞われたところがあるとのニュースには驚きました。最近秋を感じる事が少なくなったように思えますが、これほどまでに残暑に苦しめられたことはありませんでした。さて、これから12月にかけて、ワイズまたYMCA関係の行事が目白押しです。各部会の開催、じゃがいもファンドの活動、西宮カーニバル、神戸YMCA本館のバザー、チャリティラン、そしてクリスマスへと向かって行きます。ここ数年、コロナ禍で多くの行事が中止或いは規模が縮小されました。カーニバルもチャリティランでわれわれが担当してきたカレーの店、また蚤の市がなくなりました。寂しい気持ちですが、年齢のことを考えると正直、ほっとした気持ちもあります。これらの行事を通してYMCAが地域社会のなかに浸透していくお手伝いができたらとは今までと変わらず思っています。

10月になりました。第1週はノーベル賞の受賞者が発表されます。すっかり恒例となった行事です。昨年は日本人の受賞者がいませんでしたが今年は期待します。5日(木)から奈良国立博物館で開催される正倉院展(10月28日~11月13日)のチケットが発売されます。正倉院には聖武天皇(701~756)と光明皇后(701~760)ゆかりの品をはじめとする多数の宝物が収蔵されています。それが歴史的にすごいのは8世紀の美術工芸品が人の手によっ

て今日まで見事に保管され伝えられていることです。大英博物館、ルーブル美術館などは世界最大のコレクションを誇っていますが、古代オリエント、古代エジプト、古代ギリシア・ローマの彫刻類などの工芸品は土に埋もれていたものを発掘したものです。正倉院宝物展は日本という国が、今日まで世界で最も長きにわたって連綿と続いてきたことの証を見せてくれます。奈良に行って秋の恒例行事を味わいたいと思っています。



正倉院展会場の奈良国立博物館の正面入口の題字は、聖武天皇の直筆の書からから写し取ったものです

9月例会報告

重村 仁

時：2023年9月15日(金) 19:00~20:35

所：西宮 YMCA3 階会議室

9月例会特別例会甲子園野球観戦 DBC9月8日で9月15日になりました。9月半ば猛暑が続きますが、ワイズメンバー元気に集まり例会が進められ



聖句は浅野会長(馬場一郎メン選定)、食前感謝森川俊介 ゲスト紹介、浅野会長から、六甲部部长井出進、書記美崎晋、会計山根泉様をご紹介します。

甲子園球場特別例会

山口 吉郎

時：9月8日（金）18:00～

所：阪神甲子園球場外野席

5月8日のマツダスタジアムでの阪神-広島戦が雨で試合中止となり、残念ながら観戦できなかったため、今回は甲子園球場に場所を変えての3クラブ観戦 DBC となりました。濱メンが苦勞の末30席分のチケットを確保され実現しました。参加内訳は広島8名、近江八幡 14 名（長浜2名含）、西宮8名（浅野、小野、濱崎、山口、宮地ファミリー-4）でした。



井出部長のスピーチ「六甲部の現状と課題」を報告され、ついで部長目標の「YMCA とのさらなる協働をめざして」について、YMCA に対してたんに支援するから、もっと YMCA と一緒になってどのような協働ができるのかを考えていきたいと話されました。



引き続き今日のメインスピーチを、足立康幸メンが仕事の中での増えている相続税を限られた時間内でわかりやすく話されました。相続については多くのトラブルがあります。遺言の扱い、生命保険のことなど法律の知識の不足からです。

次いで、ジャガイモファンド報告・ワイズと YMCM ニュース、そして9月お誕生日会お祝いをしました。該当されるのは岩田健司メン、岡田佑一郎メン、丸山美巴メネット、宮地京子特別メネット、そしてゲストの山根泉の皆さんです。出席された岡田メン、山根メンよりメッセージがありました。例会に出席されたのは、浅野、足立、石井、岡田、小野、重村、濱、濱崎、廣瀬、藤原、万本、森川、山口、山本の各メン、ゲストの六甲部の井出部長、美崎書記、山根会計の合計17名でした。



試合は連勝中の阪神が4-1であっさり勝ち、藤川ファミリーと片岡メンには申し訳ありませんでした。ナイトゲームの為、観戦以外の交流会は実施できず流れ解散となりましたが、気持ちのいい浜風と外野席からの綺麗な景色でナイターを楽しみました。

山口政紀さんを偲ぶ会 鱧の会

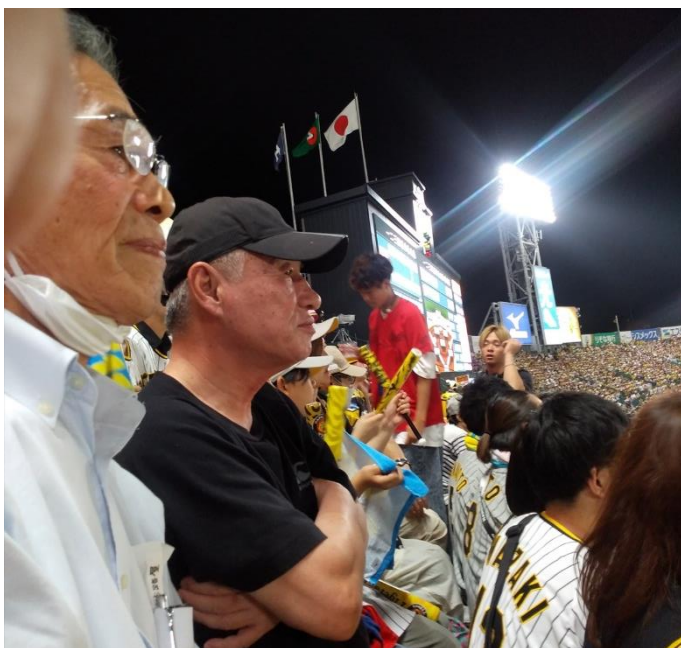
山口 吉郎

時：9月16日（土）14:00～、17:00～

所：賀川記念館、三宮好富

昨年8月15日に召天された山口政紀さんを偲ぶ会が賀川記念館で盛大に行なわれ100名超えの方が参加されました。礼拝および思い出の時の2部構成を通して、政紀さんの人となりを変えて知りました。特に青年時代のアイドルのようなルックスはびっくりでした。もてたでしょうね！

同日、偲ぶ会のあとに西宮クラブの鱧の会が好富にて3年振りに行われました。山口政隆さん、呉クラブ竹本、渡邊、近江八幡クラブ安田各メン、藤田良祐さんにも参加いただきました。



寄稿(中国現代史2)

浅野 純一

◇前回に続いて中華人民共和国について記します。1949年10月1日、中華人民共和国の成立が宣言されました。1950年2月、毛沢東はモスクワに出向きます。毛沢東の生まれて初めての海外旅行です。スターリンと会い、中ソ友好援助条約を締結しました。「中ソ同盟」の成立です。また、外交で注目されるのはイギリスとの国交関係の樹立で、イギリスが香港統治の継続と引き換えに共産党政権を承認しました。これによって外国に逃避していた上海などにいた資本が少なからず香港に戻って来ました。香港は中国の諸外国との窓口になりました。

1950年6月、朝鮮戦争が勃発しました。冷戦はアジアで、ついに熱戦となりました。中国も参戦します。朝鮮戦争を通して「抗美援朝」（「美国」とはアメリカのこと）をスローガンに戦争への動員と「反革命分子」の一掃を図ります。毛沢東は「三反五反(さんたんごたん）」と呼んだ粛清運動を行いました。三反とは政府、官僚、軍及び党の汚職浪費に反対する綱紀粛正運動で、これによって毛沢東はライバルの粛清を図ります。また、五反とは資本家及び地主に向けたもので、収賄、脱税、国有財産の横流し、仕事の手抜きと私財のごまかし、経済情報の盗竊の糾弾です。これによって1,000~1,500万人が粛清されました。朝鮮戦争と「三反五反」によって民衆のエネルギーを結集し、共産党独裁支配を確立していきます。

◇ソ連の援助を受けながら社会主義国家の建設に取り組みます。1953年より重化学工業の発展を目的とする「第一次五か年計画」を始めます。その矢先にスターリンが亡くなりました(1953.3)。1956年2月、ソ連共産党大会でフルシチョフが「スターリン批判」を行いました。毛沢東はそれに動揺します。毛沢東は政治への不満を解消する意図をもって、1957年「百花齊放、百家争鳴」（ひゃっかさいほう・ひゃっかそうめい）をスローガンにして自由な意見表明を促しました。第一次五か年計画で社会主



義の建設に自信を持ったのか、言論の自由を許しました。しかし、それは毛沢東の過信で、共産党への批判が噴出しました。すると毛沢東は「共産党への批判は共産党を潰そうとする右派の策動である」或いは「毒草をあぶりだすために行ったことである」と聞き直って批判者を弾圧し始めました。批判者に自己批判を迫り、80万人以上の党、行政機関、教育機関の役職者が失脚しました(反右派運動)。

◇「スターリン批判」後の1957年、毛沢東は「必ずしもソ連を模倣しない道を求めるべきこと」を表明します。中央政府の管理によるより、人々の意欲によって経済発展させることを求めたのです。こうして、1958年、「大躍進政策」が開始されます。これは工業、農業について高い目標を掲げて大増産を目指したものです。毛沢東は「東風(社会主義)は西風(資本主義)を圧倒する」とのスローガンを掲げ、「アメリカの核の脅しを恐れるな」と民衆を鼓舞します。冶金部長は、「鉄鋼生産を1年後には3倍の3,000万トン、4年後には9,000万トンを達成する」と気炎をあげます。各村々に溶鉱炉がつくられ、人々に鉄の材料になる物を供出させ銑鉄を作らせます。しかし、素人に鉄鋼が作られるはずがありません。使えない粗悪な銑鉄だけがむやみに生産されました。農村では極度の集団化が進められ、人民公社が設立されました。それは郷(県の一つ下のレベル)で農家を統合し、農業の経営体に加えて行政単位ともしました。小規模な農業経営から大規模な集団経営で生産効率を上げる、農民は各家庭で炊事をするのではなく、共同の食堂で食事をする。共産主義と社会主義が異なるのは、「社会主義が労働に応じて分配される」のに対して、「共産主義は必要に応じて分配される」。そうであるならば、まさに人民公社では、たとえ働きが悪くとも、共同の食堂で腹一杯食べられる理想の場です。しかし、この大躍進政策は大失敗します。鉄鋼生産は、約450万トンの生産がせいぜいで、農村でも集団化と工業生産に9,000万人も動員したことによって農業生産は激減します。政府発表は虚偽

の数字ばかりで、奇跡を捏造していました。人々は疲れ果て、大躍進政策の時期に、2,000~4,000万人が餓死したといわれます。なお、わが国では、多くの学者やジャーナリストが人民公社を礼賛しました。私は中学校の社会科の教師が絶賛していたのを思い出します。

大躍進政策の失敗によって、毛沢東は国家主席の地位を劉少奇(1898~1969)に譲らなければならなくなりました。しかし、依然として党主席の地位にありました。劉少奇は、首相の周恩来(1898~1976)を留任させ、鄧小平(1904~97)を副総書記に登用して、大躍進政策による混乱の收拾を図ります。農村では人民公社への経営統合が見直されて、小規模な生産隊に採算が移され、個別農家の請負耕作をすることで生産の回復をめざします。周恩来は、この時期の課題をまとめて、農業・工業・国防・科学技術の「四つの現代化」を提起します(1963)。これらの政策の推進者は、後に毛沢東から「資本主義の道を歩む実権派」と非難されます。

◇プロレタリア文化革命(以下、「文革」)は、1966年頃に始まり、毛沢東の死までの約10年間の長きにわたって続きます。始まりは澎真北京市長ら5人を反党集団として摘発されたことです。続いて、劉少奇や鄧小平への批判が開始されます。毛沢東は中央文化革命小組を設置し、毛沢東の4人目の妻、江青などのいわゆる文革派が革命運動を指導します。運動の狙いは毛沢東が仕掛けた権力闘争で、劉少奇や鄧小平らの実権派を追い落とすためのものでした。なお、劉少奇は当初、文革の本当の狙いに気が付いていませんでした。文革派は大学生、高校生を動員し、学校などで政府批判の壁新聞が貼られます。さらに、「紅衛兵」と称した集団を作り、毛沢東を熱烈に支持、多数の党幹部、官僚、資本家などを実権派と非難して暴力攻撃します。劉少奇は迫害・監禁された末に死去します。紅衛兵は古い物を破壊するなど文化遺産の多くを傷つけました。この10年の動乱で約5,000万人が亡くなったといわれています。

◇外交では毛沢東時代に生じた軋轢が原因でソ連、インドとの対立が深刻化します。チベットの仏教の法王ダライ=ラマ 14 世の亡命政権がインドにできたことによるものです。ソ連との対立ですが、1957 年、毛沢東はソ連共産党大会に出席するために 2 度目のモスクワ訪問を行います。フルシチョフはアメリカとの平和共存政策を進めて、米ソ間が「凍りつくような冷たい関係が雪解した」といわれた時代です。毛沢東は、そのソ連を激しく非難し、独自路線として「大躍進政策」を掲げました。ロシアと中国との対立は根本的なもので、「中国が最も警戒するのはロシア」と多くの中国人が言うのを聞きます(現在は蜜月関係を見せていますが)。中国は独自に核開発に取り組んでいましたが、1964 年 10 月、ついに原子爆弾の実験に成功しました。東京オリンピックのテレビ放送が中断して臨時ニュースが流れたことを私は覚えています。中ソ対立は、1969 年 3 月ウスリー川の中州の領有をめぐる戦火を交えます。後に核戦争一歩手前であったことが明らかにされました。

◇中国が国際的に孤立する中、1971 年 7 月、アメリカ大統領補佐官キッシンジャーが秘密裏に訪中、「ニクソン大統領が訪中する」と発表したことは世界を驚かせました。アメリカがベトナム戦争からの撤退を考えてのことです。同年 10 月には国連の中国代表権が台湾政府から北京政府に代わりました。そして、1972 年 2 月、ニクソンが訪中しました。同年 9 月には、わが国の田中角栄首相が訪中、「日中共同声明」を発表、日本がアメリカに先んじて北京政府を承認、台湾との国交を断絶すると発表しました。このような中国外交の大転換が行われるなか、毛沢東の後継者と憲法で定められていた林彪がクーデタを起こそうとして失敗しソ連に逃亡中、モンゴル上空で墜落死しました。

◇1976 年、中国の指導者が相次いで亡くなります。1 月に周恩来(1898～)、7 月に朱徳(1886～)そして、9 月に毛沢東(1893～)です。1976 年 4 月、天安門で、1 月に亡くなった周

恩来を悼む集会で民衆が暴徒化し警官隊と衝突します。これを「第一次天安門事件」とか「四・五運動」と言います。なお、鄧小平は、この事件の責任を押し付けられて失脚しています。ところで、毛沢東は「批林批孔」(ひりんひこう)とのスローガンを掲げていました。「批林」とは林彪批判ですが、「批孔」は一見すると孔子を批判しています。現に孔子廟を破壊させていますが、本当の標的は周恩来でした。孔子は周公を慕っていました。まさに、批孔は周恩来打倒の暗喩です。四・五運動は実は、民衆の文革への怒りが表面化したものでした。さて、9月に毛沢東がついに亡くなりました。後継者となったのは華国鋒で、毛沢東の意向が入っていましたが、簡単には状況は収まりませんでした。華国鋒は「文革は終わった」と宣言し、近代化に取り組むことを宣言しますが、一方で毛沢東路線の継承を訴えます。華国鋒は近代化に取り組むために鄧小平の政権への復帰を認めます。鄧小平、3 度目の政権への復活登場です。やがて、華国鋒と鄧小平の権力争いは激しさを増します。この状況下、文革派の「四人組」が逮捕されます。4 人とは江青(毛沢東夫人)、張春橋、姚文元、王洪文です。なお、毛沢東を含めて五人組とも揶揄されますが、さわらぬ神に祟りなしです。1978 年共産党第 11 期中央委員会で華国鋒は失脚し、鄧小平が権力を掌握します。以後、鄧小平が指導する「改革開放政策」が始まります。中国の新しい歴史の始まりです。

参考資料
『真実の中国史』黄文雄 ビジネス社、放送大学テキスト
『歴史からみる中国 第 14 回 中国社会主義の展開』吉澤誠一郎氏(2013)、ウィキペディア「国共内戦」20.12.26
ユン・チアン『マオ』講談社 2005 年

ワイズニュース

【今後の予定】

- 10月7日(土) 六甲部ローンボウルズ大会
- 10月10日(火)～13日(金) じゃがいも配達
- 10月13日(金) 第二例会
- 10月21日(土) びわこ部会
- 10月28日(土) 西宮こどもカーニバル
- 11月4日(土) 西中国部会

第21回アジア・太平洋 YMCA 大会

西宮 YMCA 狩山 晴奈

西宮 YMCA の狩山晴奈です。

先月アジア・太平洋 YMCA 大会に参加してきましたので、ご報告させていただきます。

9月13日(水)～20(水)に第21回アジア・太平洋 YMCA 大会がインドのチェンナイ(旧マドラス)にて「回復力のあるコミュニティとしてともに歩むーVision2030 を通しての生き方の変革ー」をテーマに開催されました。コロナ後初めて、アジア・太平洋地域の YMCA が直接集まる機会となり、21の国と地域から344名(うち日本は45名)が参加しました。

YMCAの活動を振り返り、YMCA運動の推進に関して学び、より具体的なこれからの活動について話し合いが行われました。各国の様々な問題に対して、国際的に協力していくことが必要であり、そのためにはストーリーを共有し、「会話」をしていくことが必要である、とコロナ後久しぶりの対面開催の中で協調された部分でした。グローバルなYMCAとしてのミッション、これからの活動の方向性を考えていきたいと思えます。



フジバカマ/アサキマダラ 藤原ワイス撮影
摩耶山天上寺

編集後記

ブリテン委員 山口 吉郎

★ラグビー、バレーボール、バスケット等々世界各国との試合が目白押し。俄かファンとなって応援してる今日この頃 ★先月に続き浅野会長より中国現代史を寄稿いただきました。大変勉強になります
★YMCA ニュースは、森川担当主事が研修出張のため代打狩山さん ★ブリテン編集集中に六甲部部会が持たれましたが、紙面の都合で報告は来月に★

